# 25［小説］『鉄塔家族』

　奈穂は、工事の騒音は、意外と思っていたほどではない、と感じていた。

　工事現場に面した西側の部屋にいれば、しじゅう自家用発電機のディーゼル音や重機のたてる鈍い振動音、職人が鉄を叩く甲高い音といった様々な騒音に［　　Ａ　　］ａ曝されることとなったが、東側のリビングで仕事をしている限りは、例の「バカヤロウ」の叫び声がときおり、近頃ではとぼけた味わいも帯びて聞こえてくる他は、さして気に留めることはなかった。

　工事の振動によるものか因果関係はまだはっきりしないが、外壁や浴室の壁にひびが入った、という苦情が出ている部屋もあるようだった。確かに、つい最近になって風呂場のタイルに薄く亀裂が入っているのを見付けたが、①それを言い出せばきりがないので、②あまりこだわらないようにしていた。それに、斎木が言うには、工事も昔に比べれば、ずいぶんと防音やｂ遮音、防震処置が施されているということだった。

　それでも、日中の工事中に、無意識のに身体がｃシゲキを受け続けていることは、やはりｄ否めないようだった。工事が終わったはずの夜になっても、音が耳について離れない感じもあれば、ちょっとした物音にも過敏となることもあった。昼間とは逆に、今度は立たない音に対して、耳が聞こうと躍起となっているかのようだった。

　例えば、それまでふだん特に気に留めないでいた冷蔵庫のサーモスタットが働いたときのモーターの起動音や置き時計が秒針を刻む音。わずかな風を受けて、語尾を伸ばすようなり声をかすかに上げる鉄塔やクレーン。どこかの部屋から聞こえる、何とはわからないが楽器をふざけたように鳴らしている音……。

　③そんな夜にあって、いている時間が日がつにつれて確実に少しずつ長くなっていく④の声に耳を預けられるときは、⑤救いとなった。その音に耳を澄ませているうちに、耳をせんばかりの音の余熱のようなものがもっていた身体も、自然と鎮まっていくように感じられた。

　青葉木菟の雌が卵を産んで抱卵をはじめたのだろう、雄がを求めて、石段のある松林の方から、野草園の池の辺りの方から、けものみちの方から……、と様々な方向へと飛び回っては、縄張り宣言と、餌を獲ったことを雌に知らせるための啼き声を立て、雌も呼応した。

　しかし、⑥青葉木菟の方でも、奇っ怪な音を立てている、とおれたち人間の方を怪しんでいるかもしれないな、と斎木がｅネドコでボソッとつぶやいた。

●語注

青葉木菟＝夏鳥。平地から山地の林、農耕地などに生息する。繁殖期には、夕方に雌雄が鳴きあい、その後活動を始める。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　空欄Ａに入る最も適当な語句を次から選べ。6点

ア　少なくとも　　　　イ　せめても

ウ　いくらなんでも　　エ　是が非でも

オ　が応でも

〔　　　〕

問２　傍線部①の指示内容を本文中の言葉で簡潔に答えよ。6点

〔　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部②で何に「こだわらない」というのか答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部③とはどのような夜か答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部④の説明として最も適当なものを次から選べ。6点

ア　途切れ途切れに聞こえてくる青葉木菟の啼き声を聞き漏らすまいと、じっと耳を澄ませて聞いている様子。

イ　昼間うるさくて聞けなかったかわりに、夜に青葉木菟の啼き声に耳を澄ませている様子。

ウ　日が経つにつれ長くなる青葉木菟の啼き声に耳を傾け、一心にその声に聞き入っている様子。

エ　遠くから聞こえてくる青葉木菟の啼き声にいつしか聞きほれてしまい、となっている様子。

オ　青葉木菟の生態を目に浮かべながら、その啼き声に一喜一憂しながら聞き入っている様子。

〔　　　〕

問６　傍線部⑤とあるが、奈穂にとってどういうわけで救いとなったのか。その理由を答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７（１）傍線部⑥の「奇っ怪な音」とは具体的には何を指すか。本文中から一つ例をあげよ。4点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

　　（２）傍線部⑥も擬人的な表現といえるが、16行目までで擬人法が用いられている箇所を本文中から一箇所抜き出せ。4点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

漢字　ａさら（される）　ｂしゃおん　ｃ刺激　ｄいな（めない）　ｅ寝床

問１　オ

問２　苦情

問３　Ａ風呂場のタイルに亀裂が入ったこととＢ工事の振動との因果関係

　　（Ａの内容がなければ５点減点、Ｂの内容がなければ×）

問４　日中の工事の騒音が耳について離れなかったり、ちょっとした音にも過敏になったりする夜

　　（傍線部に近い表現がなければ、それぞれ５点減点）

問５　ウ

問６　工事の騒音で変調をきたした身体が自然にいやされるように感じられたから

　　（傍線部の内容がなければ、それぞれ５点減点）

問７（１）・自家用発電機のディーゼル音

　　　　　・重機のたてる鈍い振動音

　　　　　・職人が鉄を叩く甲高い槌音

　　（２）・耳が聞こうと躍起になっている

　　　　　・音が耳について離れない

　　　　　・語尾を伸ばすような呻り声をかすかに上げる鉄塔やクレーン

■覚えておきたい語句

□3　曝される……………………風雨や日光などにあたるままにしておく。

□5　さして〜ない……たいして。それほど。

□6　因果関係………………原因とそれによって生ずる結果との関係。

□10　否めない………………否定できない。

□18　耳を預ける……………ゆだねる。託す。

□18　耳を聾する……………耳が聞こえなくなるかと思うほど爆音がするたとえ。

□22　呼応……………………一方のものの呼びかけに相手がこたえること。

□問１是が非でも……………何が何でも。

□問１否が応でも……………どうしても。

〔場面解説〕

　山の上のマンションの近くで始まった新しい鉄塔の敷設工事。その工事の騒音を奈穂はあまり気に留めないようにしてきた。しかし、奈穂の身体は無意識の裡に刺激を受け続けて、夜になっても音が耳について離れなかったり、ちょっとした音にも敏感になることもあった。

　そんなときに、青葉木菟の啼き声に耳を澄ますことが、変調をきたした奈穂の身体を鎮めてくれるのだった。

〈作者＆出典〉佐伯一麦（さえき・かずみ）一九五九年（昭和34）宮城県生まれ。小説家。高校卒業後、上京。週刊誌記者や電気工などさまざまな職業を経て、『木を接ぐ』で新人文学賞を受賞しデビュー。以後、『ショート・サーキット』で野間文芸新人賞、『ア・ルース・ボーイ』で三島由紀夫賞を受賞するなど、数々の文学賞を受賞している。本文『鉄塔家族』（朝日文庫、二〇〇七年）は、新聞連載小説で、次郎賞を受賞した。

【読みのセオリー】

★丁寧に言葉を読む

　問５　｢耳を預けられる」

　普通あまり用いないような言い方が小説の中ではしばしば用いられる。なぜそのような表現をするのか。その意味を丁寧に考える。

　相手（ここでは青葉木菟）を信頼しているから、啼き声に耳を預けることができる。

■読みのセオリー［実践］丁寧に言葉を読む

問５　「④青葉木菟の声に耳を預けられる」の「られる」は、

［１　　　　］と

［２　　　　］

の二つの意味で解釈できる。

　「耳を預けられる」のだから、声ははっきりと聞こえているはず。そしてその声を

［３　　　　　　　］思って聞いている様子が読み取れる。

〔解答〕　１可能　２自発（１・２順不同）　３好ましく（良いと）

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問８　空欄Ｂに入る適語を漢字二文字で答えよ。（Ｂ６行目「因果」を空欄に）

　［答］　因果

＊新問

問９　18行目「耳を聾せんばかりの音」とは何か、本文中の言葉五字で答えよ。

　［答］　工事の騒音

＊◆漢字１として、新問

◆漢字２　本文中の二重傍線部１〜６の漢字には読みを記し、カタカナは漢字に直せ。

１　音や重機のたてる鈍い振動音、

２　職人が鉄を叩く甲高い槌音

３　耳が聞こうとヤッキとなっている

４　耳を聾せんばかりの音

５　雄が餌を求めて、

６　雌に知らせるための啼き声を立て、雌もコオウした。

　［答］　１にぶ（い）　２つちおと　３躍起　４ろう（せん）　５えさ　６呼応